

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名：

評価センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
④-1 目標	<p>1. 平成24年度から、評価センター運営委員会認証評価ワーキンググループ(座長:教育開発センター副センター長)を定期的に開催し(計19回:平成26年度は計4回開催)、大学機関別認証評価における自己評価書を計画的に完成させ、6月末までに提出した。また、大学評価・学位授与機構による書面調査(7月～10月)及び訪問調査(10月23日～10月24日)等に対して、評価センターを中心に適切に対応した。これを受けて、3月26日に、「岡山大学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。」との適格認定の評価結果を得た。</p> <p>2. 大学機関別認証評価に係る自己評価書等を各学部・研究科等と情報共有し、各学部・研究科等のエビデンスデータ等を部局現況分析評価報告書(教育)作成に活用できるようにした。また、大学機関別認証評価に係る自己評価の過程で把握した課題については、随時、関係部局に速やかな改善を促し、訪問調査において指摘された事項についても11月の教育研究評議会にて全学に周知して早期の改善を促した。</p> <p>3. 評価センター法人評価専門部会を中心として、教育・学生支援機構、研究推進産学官連携機構及び戦略的プログラム支援ユニットの協力を得て、8月～9月に部局現況分析評価の結果を分析検証した。検証結果を9～10月の「部局と大学執行部との意見交換会」における参考資料として提供し、執行部と連携して、部局の教育研究活動及び管理運営等の改善を促した。また、12月末に部局現況分析評価の検証結果及び第2期中間目標期間の現況調査表作成に係る改善点等を各部局へフィードバックした。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
1. 大学機関別認証評価を受け、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準に適合する。	
2. 大学機関別認証評価の自己評価を、部局現況分析評価と有機的に実施し、その過程において明らかとなった課題等に取り組み、全学及び部局の教育研究活動等の改善を図る。	
3. 教育研究活動等の改善に資するため、部局現況分析評価を実施し、その評価結果を検証する。検証結果を大学執行部等と連携して部局へ還元することにより、組織運営の改善を促す。	
1. 大学機関別認証評価における自己評価書及び評価結果	
<b>【総括記述欄】</b>	
<b>【管理・運営面】</b>	
平成28年度に受ける第2期中期目標期間評価に向けた自己点検・評価を万全の体制で進めるため、2月に評価センター運営委員会法人評価専門部会に新規委員3名、認証評価ワーキンググループから委員2名、オブザーバー1名を追加し、自己点検・評価及び報告書作成等の体制を整備した。評価センターに係る事務については、平成25年度に引き続き、総務・企画部総務課の事務職員3名(1名は重点配置)で主に対応した。	
<b>【達成状況総括】</b>	
全体的に目標を達成している。なお、上述のほか、以下の取組を実施した。 評価センター長及び担当事務職員が、8月21日:国立大学法人等評価実務担当者説明会(大阪:大学評価・学位授与機構主催)、8月28日～29日:大学評価担当者集會(神戸:大学評価コンソーシアム主催)、9月18日:大学ポータルに関する国立大学向け実務担当者協議会(東京:大学評価・学位授与機構主催)、11月26日:大学教育の質保証研修(東京:大学評価・学位授与機構主催)、3月11日:第3期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領等に関する説明会(東京:文部科学省)等に参加し、内部質保証等に関する資質向上につなげた。 教員活動評価については、評価センター長が、4月と10月の新任・転任教員研修会で講演を行い、学外では、1月には「大学教員の人事・評価・処遇施策の新展開」に関する研修会で私立大学関係者23名に講演を行った(東京:地域科学研究会・高等教育情報センター主催)。また、国立大学協会政策研究所『国立大学の人事・給与制度に関する調査研究報告書』(5月)に、本学の教員活動評価資料が掲載されたほか、平成26年度は、上智大学、広島大学、大阪大学、北海道教育大学、岐阜大学、長岡技術科学大学から来学視察があり、他大学のモデルとなる波及的な役割を果たした。	
<b>【次期改善点等】</b>	
現況分析評価や大学機関別認証評価において収集した資料・データや自己評価書及び評価結果を有効活用し、第2期中期目標期間評価の達成状況報告書や業務実績報告書作成等に活用する。大学機関別認証評価における自己点検・評価の過程において、必要な資料・データの収集にあたっては、平成19年度に受けた大学機関別認証評価において折々難渋したことを踏まえて、今回は、部局の負担軽減を図りつつ、効率的・効果的にデータを収集するよう改善に努めた。しかしながら、部局から意図したデータが集まらない場合もあり、膨大な定性的・定量的な資料・データを基に、叙述資料分析や数量データ分析を通して自己評価書に反映させるまでの作業に引き続き一部課題が残った。これからのことから、今後は、平成27年4月設置予定の広報・情報戦略室と連携・協力を図り、全学のIR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を支援する。また、第3期中期目標期間における評価センターの活動を視野に入れて、引き続き、評価センターの体制の在り方を検討する。	